

歌声で式典に花を添える

コール・フラヌイ



▲市制施行50周年記念式典の舞台で国・市歌を斉唱するメンバー

富 良野市市制施行50周年記念式典の舞台で国歌と市歌を斉唱したコール・フラヌイ（佐々木アヤ子代表）。昭和47年9月に富良野文化会館の落成を祝うために、「富良野中央公民館マザーズコーラス」として結成され、昭和60年に現在の「コール・フラヌイ」に名称を改名しています。

コール・フラヌイは、現在8人の団員とピアノ伴奏者、指揮者の10人がボランティアで活動



▲今年の成人式で国・市歌斉唱

し、市民総合文化祭をはじめ、公民館フェスタや成人式などの式典で歌声を披露しています。さらに、「歌の宅配便」として、市内の老人施設や地域のふれあいサロンなどで歌を通じた交流を実施。「高齢の人たちは知っている曲を歌うと、みんな不思議と笑顔になります」とハイタッチなど手と手でふれあいながら、楽しいひとときを過ごしてくれていると佐々木代表は話します。このような活動の場で着る衣装は自前で用意しているコール・フラヌイのメンバー。クリスマスやお誕生日会などで会場を訪れた際には、ワンポイントの飾りでちょっとだけ衣装にも演出を施しているそうです。

良野市がどういうまちなのかということが良くわかり、リズムも良いので、自分自身も歌っていて元気が出ます」と話します。また、過去には京都大学の交響楽団のコンサートに参加するなど、大舞台でも活躍するコール・フラヌイ。メンバーたちは「大相撲の場で国歌を歌いたい」という夢を持っているそうです。昭和60年に加入した佐々木代表は「これまでさまざまジャンル曲を歌ってきましたが、気持ちを入れて歌うというのは何年経っても難しい」と話す一方で、メンバーが少なくなってきたため、興味のある人、歌の好きな人は、ぜひ一緒に活動していきたいと考えています。来年は結成されてから45周年を迎えるコール・フラヌイ。これからも歌を通じた活動を展開しながら、多くの人たちに歌の魅力伝えていきます。



▲「歌の宅配便」で訪問した北の峰ふれあいサロン